



第507号 令和2年10月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 杉本英造

新型コロナウイルス感染と学校健診

会長 杉本英造

9月から再開した学校健診は順調でしょうか？いくつかの小中学校で新型コロナ感染発症あり、対応に苦労されているものとお察しします。私の務める西京高校でも健診が始まりました。1学年280名(40名×7クラス)計840名で、700名超にて校医複数配置で2名の校医で当たっています。1学年ごとに日を変え、3日設定し、運動器検診は11月からの予定です。通常はひとつの教室にパーティションで診察室を作り、更衣していましたが、今年は蜜を避けるため、1クラス男女20名ずつをさらに2つに分け診察室入室10名で更衣、隣の部屋待機10名としました。部屋が4つ用意されたこととなります。1つのクラスが終了したら次のクラスを呼び出し、いつものように廊下に密集しないようにしました。生徒もマスク着用で、診察毎に聴診器をアルコール綿花で拭き、甲状腺や脊柱を触診したら手指消毒施行しました。男子は上半身脱衣、女子は通常は養護教諭作成のバスタオルを使用するのですが、今年は使い回しできないので制服のブラウスを両脇にはさみ前を覆う状態で診察時に挙げ聴診し、背中では着衣していないため脊柱検診は容易となります。着衣のまま健診を行うと、脊柱側弯や皮膚疾患などの見落とす原因になりうるので、プライバシーの保護を配慮したうえで、この方式で行っています。近年は「性同一性障害」の問題もあり養護教諭からの情報を共有し、健診に当たる必要もでてくると思われまます。更衣場所を増設した効果もあり、例年と変わらない時間で健診できました。他校でも更衣室の工夫が健診の時間短縮に寄与したとの情報をいただいています。蜜にならないようにしたことが良い効果をもたらしました。

京都先端大学：渡邊能行先生が(京都新聞10月3日朝刊)で、新型コロナウイルスのPCR検査をし

ても全体の3割は陽性を見落とし、市中に感染者がいると考えられるので、3密回避、マスク着用、手洗い励行し、予防の最善を尽くし、それでも感染すれば不可抗力だったと考えるしかないと述べておられます。いくら注意しても感染は広がることはあり、クラスターが発生した施設は自省し、対策を取り社会はその事例から学ぶことが大事なはずだが、責めては学ぶことができず、地域社会で余計なストレスを生むだけになる。差別を生まない寛容な地域社会が築けるかが大切で、起きている事象は地域の実情を写す鏡なのかもしれないと。同感です。校医ニュース7月号でも掲載しましたが、日本赤十字社のサポートガイドに、①生物学的感染症：ウイルスによる「疾病」②心理的感染症：強い「不安や恐れ」③社会的感染症：不安や恐怖が「嫌悪・差別・偏見」を生む 提示してあります。

医療人類学者：磯野真穂氏は「何かが起きたらその責任を取らされるという恐れ」それは「誰がなってもおかしくない」と一方で言いながら、他方で「これは人間によるコントロールが可能な病気なんだ」という信念が社会に共有されているからこそ生じます。予防医療にみるように、あらゆる病をコントロールしたい、できるという人間の欲望が、新型コロナでも感染してはいけない、感染させてはいけない、社会のシステムで対処できない病気をみるのが嫌という感覚を社会にまん延させている。可視化されたリスクはコントロールできないに違いないという現代社会の特異な「当たり前」が恐怖と分断を生んでいます。コロナに勝つということはつまり、適切な対策を取ればそれを管理下におけるということだと。今一度、新型コロナウイルスとつきあっていく術を学ぶことが大事です。

第71回指定都市学校保健協議会（岡山）

— 令和2年6月7日 —

会長 杉本英造

新型コロナウイルス感染により開催できず 誌上発表となりましたので、演題のみ報告します。

第1分科会【健康教育】

主旨：生涯を通じて、心身の健康を保持増進するための資質や能力を育成する健康教育のあり方について協議する。

- 健康課題を解決するために主体的に取り組む能力を育てる健康教育の推進
- 学校、家庭、地域、関係機関との連携による効果的な健康教育の取組
- 1. 幼稚園での「遊び」の要素を取り入れた保健指導の実践 ～自分の体を大切にできる子どもの育成を目指して～
札幌市立はまなす幼稚園 養護教諭 宮崎真紀
- 2. 認定こども園の環境検査を行うにあたって、職員へ周知したこと
相模原市薬剤師会 学校薬剤師 鷲山 毅
- 3. 主体的に自分の歯・口の健康づくりに取り組む子どもの育成 ～噛むことを題材にした学級活動を通して～
岡山市立小串小学校 養護教諭 川上莉那
- 4. 「心が元気 体が元気」
～主体的に行動できる自立した子どもを育む健康教育～
広島市立深川小学校 教諭 上藪貴史
- 5. 子どもの心とからだの健康づくりをすすめるために ～「やってみたい！」と思える学校保健委員会へ～
熊本市立秋津小学校 養護教諭 河野 彩

第2分科会【保健管理】

主旨：多様化・複雑化する子どもたちの健康課題に対し、柔軟に対応することのできる子どもたちを育むために必要な保健管理の充実のあり方について協議する。

- 児童生徒の実態を踏まえた健康課題を解決するための取組
- 効果的な健康診断、救急処置に対する取組
- 1. 学校検診での成長曲線の活用 ～より効果的な活用を目指して～
北九州市医師会 学校生活習慣病部会
委員 山本幸代

- 2. 君は、どう生きる？健康でいるために…
～保健教育から保健管理へ繋ぐ 健康への意識改革をめざして～
浜松市立笠井中学校 養護教諭 小野田珠実
- 3. 養護教諭の視点から捉えるリスクマネジメント
～日常的な救急処置・対応から考えるヒューマンエラーの防止～
さいたま市立八王子中学校 養護教諭 永瀬友紀
- 4. 進んで健康な体をつくる蒲っ子の育成
～健康教育推進指定校としての取組を通して～
仙台市立蒲町小学校 教諭 小川原和美
- 5. 科学的根拠に基づいた「生きる力」を育む歯科保健
福岡市立屋形原特別支援学校
学校歯科医 柏木伸一郎

第3分科会【心の健康】

主旨：未来にわたって自分の健康・安全に気を付け、より良く生きようとする心を育む学校保健の推進について協議する。

- より良く生きようとする心を育てるための保健教育の在り方
- 1. 養護教諭を支援、ともに目指す「心の健康」の充実 ～横浜市立中学校教育研究会 養護教諭部会の活動を通して～
横浜市立富岡東中学校 校長 村井法泰
- 2. 来室児童に寄り添う対応をするために
～頻回来室児童に対応する際の若年層とベテラン層の思考の比較～
千葉市立幕張東小学校 養護教諭 千葉香里
- 3. 児童の自尊感情を高める取組について
神戸市立星和台小学校 養護教諭 大野恵子
- 4. 小学校体育科保健領域で取り組む「心の健康」について
大阪市立みどり小学校 養護教諭 歌門里佳
- 5. 新たな学校歯科保健活動を求めて
～は～もに～プロジェクト～
新潟大学大学院 医歯学総合研究科
葭原明弘

第4分科会【地域保健】

主旨：保健教育、安全教育、防災教育等における学校・家庭・地域社会・専門機関等の望ましい連携協働のあり方について協議する。

○学校・家庭・地域の連携協働による学校保健活動の推進

○地域の関係機関と連携して取り組む学校保健活動の取組

1. 保健センターとの連携を柱とした健康課題への取組 PART2

～協働 互いの視点やつながりを活かして～

堺市立深井小学校 養護教諭 多田紀子

2. つなぐ・つながるを意識した保健・安全教育
～知る・考える・行動する～

京都市立九条弘道小学校 校長 木村和美

3. 「9年間を見通した健康教育の取組」(3年間の取組)

静岡市立大里中学校 養護教諭 秋澤真里

4. 心臓病検診のフィルムレス化とデジタル環境の整備
川崎市立中原小学校 学校医 堺 浩之

5. 児童生徒の眼外傷予防

名古屋市学校医(眼科)会 常任理事 戸塚伸吉

No2は京都からの演題。九条弘道小学校学校運営協議会は、組織の中心となる「理事会」の下に「体

験活動委員会」「まなび支援委員会」「学校安全委員会」の3つの委員会からなる。学校運営協議会を通して、日頃から学校・家庭・地域が協働で子どもたちを豊かに育むことを目指す。安全教育・防災教育の視点から、子どもが「自分の命は自分で守る」「できることを自身で考え正しく判断、行動する」ために区役所、消防、警察、自治連合会と連携し、災害時の避難場所がどのように設置されているか、避難所での生活の仕方や役割分担について知る。体験学習を通して避難生活での困りを考え想像する。「新聞紙スリッパ」「衣服の担架」「ポリ袋防寒着」「雑紙食器」「ペットボトルライト」などの作成や使用法を学ぶ。災害トイレの使用法、被災部屋体験を体験する。また乳幼児がいる家庭、高齢者や身体障害者を含めて、避難所で困りごとなく過ごすために自分たちができることを考えるなど、有事に備えた学習は大事である。子どもを通して地域がつながる環境づくりは大切です。

上記の演題抄録は、学校医会事務局にありますので、お気軽にお問合せください。

中学生のラグビー大会に行ってきました

福西小学校医 奥村正治

10月3日(土)秋晴れの日に宝ヶ池球技場にて、61回京都市中学校選手権大会 兼 73回京都市中学校総合体育大会ラグビーフットボールの部の大会が開かれました。本日は、今までに予選が太陽ヶ丘競技場にて行われ、勝ち進んだ、8チーム4試合が行われる準々決勝戦になっております。

午前10時キックオフで試合が始まり、藤森中学⇄七条中学、上京中学⇄伏見中学、洛南中学⇄長岡第二中学、四条中学⇄西陵中学の組み合わせとなりました。

野外の試合ではあるが、ベンチ側にいる選手、監督等々がノーマスクであり、大変な大声を発している。今のコロナ禍の時期少々気になる。消防署の方々でもハンディースピーカーを使用と聞いている。一考ありか？トランプさんもコロナになった。学校の先生と言えどもコロナにならないとは限らない。トライ・ゴール等の後の給水はそれぞれ個人の水筒などを使用との事、これは今までと違い、回し飲みをしない点で良いと言える。又、保護者の応援も今回は無し。これも致し方ないでしょう。しかし、応援席の他の学校のラグーマンも何人かはマスクなしで応援の声を出していた。これもどうかと感じた。も

う1つ、試合の審判は笛で全て合図をする。試合ごとに審判は交代するが、この笛は交代せずに使用か？個人用の笛か？役員の方に聞くのを忘れました。

本日の結果は、藤森中学80対12七条中学・上京中学17対31伏見中学・洛南中学82対0長岡第二中学・四条中学12対61西陵中学でした。

私の感じでは、点数が近いチーム同士の対戦は、選手の運動量が似通っているのか？何かの症状が出るのでは？という様なぶつかり合いでした。

中学のラグビーの試合には、中学生ルールがあるようで、前半20分で、5分ほどの休憩、後半20分である。ほぼ一時間で一試合が終了。スクラムはスクラムの形はとるが、首の事も有りお互い押し合うことはない。審判はクラブの指導者が持ち回りで担当しておられる様である。主審・副審の他に、メディカルスタッフと言う名称で医療の第一関門を競技役員の方々試合中担当していただけるので、本日も打撲や、鼻出血のケースがありましたが、メディカルスタッフの方々で対処して頂いたので、4試合ありましたが医務担当の方に来た選手は一人も居ませんでした。

第 5 回 常任理事会

令和 2 年 10 月 3 日 於 事務局

出席者 杉本会長，井本・山内副会長，大久保・川勝・中嶋・西村・林各常任理事，嶋元眼科学校医会理事，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，奥村議長，長村・東道監事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 精神衛生研究会 9/10
2. 腎臓相談 9/15 1名
3. 色覚相談 9/29 2名
(10月4名，11月1名の予定)
4. 京都市中学校選手権総合体育大会ラグビーフットボール種目 於：宝ヶ池グラウンド 10/3
奥村 準々決勝4試合 怪我人なし
保護者の参加はなし
5. 京都市中学校秋季総合体育大会
(柔道種目10/14，10/25) 中止
6. 京都市小学生記録会
(第49回陸上記録会 10/31，第40回持久走記録会 11/28) 中止
7. 新型コロナ感染症報告
8. その他

<協議事項>

1. 桂坂小学校医：緒方伸好先生退任について
2. 京都市学校保健会
研究委員会 11/21 (土) 研究発表会 ⇒ 中止
表彰委員会 11/21 (土) 表彰式 ⇒ 延期を検討中
表彰祝賀会は中止
企画委員会 10/13 (火)
健康教育シンポジウム ⇒ 中止
広報委員会 「京都の学校保健」
例年通り年2回発刊 (10月，3月)
西村先生委員長

3. 学校健診におけるコロナウイルス感染 補償・保険等について⇒公務上の災害としてケースバイケースで対応
4. 健診で使用する耳鏡・舌圧子のディスボ化について
5. 色覚相談事業の委託費用について
6. 学校健診での上半身脱衣について
7. 会議の出務費について リモートの場合
8. その他

<関連学会・各種協議>

1. 腎臓相談 10/6
2. 精神衛生研究会 10/8
3. 令和2年度子どもの健康週間 (日本小児科学会) 行事 子育て支援シンポジウム
WEB講演会 10/10
4. 京都市中学校選手権総合体育大会ラグビーフットボール種目 於：吉祥院グラウンド
10/11 中嶋，10/18 生田先生
5. 色覚相談 10/13，10/20，10/27，11/24
6. 第6回常任理事会 11/7
7. その他

